



仲間を信頼するからこそ発揮できる 自分の力

学校長 大竹 貴子

今年も、猛暑による熱中症や各地域での大雨による被害などが報道されましたが、幸い本校の子どもたちは大きな事故もなく、元気に夏休みを送ることができ嬉しく思います。

さて、今年の夏はオリンピックがリオデジャネイロで開催され、連日のメダルラッシュに日本中が沸きました。私もテレビを見てどきどきはらはらしながら応援していましたが、勝っても負けても涙ぐみながら家族のもとに駆け寄る選手の姿を見ては、胸がつまりました。これまでどれほど苦しい練習があり、それを家族が支えてきたか、家族の絆を強く感じた大会でした。また、陸上の男子400メートルリレーで日本のチームが銀メダルを取ったことも心に残りました。それは、一人ひとりのタイムを比べると日本のチームが勝つことは難しいのですが、バトンパスの技を極め2位を勝ち取ったからです。並々ならぬ練習の成果だとは思いますが、「仲間を信頼する」強い絆をここでも感じました。

本校にも、この夏、仲間とともにがんばった子どもたちがいます。その一つが合唱団です。実は、6月にTBS合唱コンクールのテープ審査に落ちてしまいました。子どもたちの落胆ぶりは大きいものでしたが、NHK合唱コンクールに向けもう一度がんばろうと気持ちを切り替え、練習を積み重ねました。けれど、6年生と3年生では経験の差が大きくなかなか指導したことが全体に浸透しません。そこで、子どもたち同士で教え合う時間を多くとることにしました。数人ごとに各教室や廊下に散らばり、それぞれが課題だと思えることを話し合い、教え合い、納得するまで歌い合う。そんな光景が何日も見られました。合唱は大人数が歌います。一人が声を出さなくても目立たないかもしれません。でも、一人が歌わないと確実に声量が減り迫力がなくなります。逆に大きな声でも友達と異なった発声や発音だと声がまとまらず遠くまで響いていきません。一人ひとりの責任は大きいのです。そのプレッシャーを感じつつ、8月5日の県大会当日は仲間を信じ気持ちを一つにして歌い、みごと金賞を取ることができました。結果を聞いたとき、子どもたちはみんな涙涙でした。教師も保護者も思わずもらい泣きしてしまいました。技術的には他校の方が上手だったかもしれません。しかし、子どもたちの、仲間を信じ中沢小の歌声をみんなで作り上げようという思いが伝わったのだと思います。9月3日には関東甲信越大会があります。県の代表として、子どもたち自身がくいのないよう精いっぱい表現してほしいと応援しています。

7月28日(木)には、笹野台小に東希望ヶ丘小と本校の子どもたちが集まり、区の水泳大会が開かれました。スタートの合図とともにプールサイドに響き渡る3校の仲間の応援の声。夏季水泳教室で初めて25メートルを泳げるようになって水泳大会に参加した子ども。リレーで力を合わせ、泳ぎをつなぐ子どもたち。どの子どもも、もてる力を存分に出して泳ぎ切った満足感に輝いていました。そこで、男子200メートルリレー1組とその中の1名が男子自由形50メートルで区の代表に選ばれ、8月25日(木)に横浜国際プールで開かれた市小学校水泳大会でも、自分の力を発揮し立派な泳ぎを見せてくれました。

この夏、多くの本に親しんだ子、お手伝いをがんばった子、自分で決めたことを毎日続けた子、苦手なことにチャレンジした子、それぞれが家庭や地域でいろいろなことに取り組み、夏休みならではの体験をしたことでしょう。子どもたちからの夏休みの報告が楽しみです。そして、夏の体験や頑張りで得た成果を、夏休み明けの学校生活で友達とともに十分に活用してほしいです。

早いもので、あとひと月と少しで前期の締めくくりを迎えます。保護者の皆様、地域の皆様、引き続きご支援ご協力をよろしくお願いいたします。